

朱刊謠曲集

續十四

古典文庫

田中 允 編

# 朱刊謡曲集

続十四

古典文庫

古典文庫第五七一冊

平成六年六月二十日印刷発行

非売品

編者 田中 允マコト

発行者 吉田 幸一

印刷者 共立印刷株式会社

製本者 (有)武蔵製本

集曲謡未刊  
十四続

発行所

114

東京都北区西ヶ原  
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 (三九一〇) 二七一七  
振替口座 〇〇一九〇一九一四五九七番

# 目次

|               |       |             |
|---------------|-------|-------------|
| 凡例            | ..... | 七           |
| 各曲解題          | ..... | 一一          |
| 本文            |       |             |
| 皇軍艦(赤道神)      | ..... | (一一).....九三 |
| 身 壳元禄版本系本(神原) | ..... | (二三).....九八 |
| 身 壳福王系本(全右)   | ..... | (二三).....一七 |
| 身 壳上杉本(全右)    | ..... | (二三).....三三 |
| 三乙女           | ..... | (二六).....四六 |
| 水尾山異本         | ..... | (二七).....五六 |

御蔭雨……………(一九)……一六六

御蔭命……………(二〇)……一七二

御国光能楽画報本……………(二〇)……一七九

御国光梅若本……………(二〇)……一八二

水分……………(二五)……一八六

御崎異本(十羅刹・むら雲・十柄?・十柄劔?・出雲十柄?)……………(二六)……一九二

水……………(二八)……二〇四

水城(天離る)……………(一九)……二一一

水漬屍……………(三一)……二二一

三のむら……………(三二)……二二八

みどり川……………(三七)……二三七

壬生寺復曲本……………(三九)……二四四

|             |       |            |
|-------------|-------|------------|
| 三保          | ..... | (四〇) : 二五〇 |
| 宮城野觀世版本(萩)  | ..... | (四二) : 二五八 |
| 宮城野明和本      | ..... | (四二) : 二六三 |
| 宮城野異曲       | ..... | (四三) : 二六七 |
| 宮崎          | ..... | (四四) : 二七六 |
| 宮崎城         | ..... | (四五) : 二八三 |
| 深山かづら       | ..... | (四八) : 二九四 |
| 明州          | ..... | (四八) : 二九七 |
| 明 静異本(明静定家) | ..... | (四八) : 三〇〇 |
| 妙龍水         | ..... | (五一) : 三〇九 |
| 御代の曙        | ..... | (五四) : 三三八 |
| 三わたり異曲      | ..... | (五五) : 三三〇 |

|   |                    |       |            |
|---|--------------------|-------|------------|
| 六 | 神                  | ..... | (五七) : 三三九 |
| 夢 | 幻                  | ..... | (五八) : 三四一 |
| 無 | 間鐘                 | ..... | (六〇) : 三五〇 |
| 武 | 藏塚異本               | ..... | (六五) : 三六二 |
| 武 | 藏野異本               | ..... | (六六) : 三六七 |
| 武 | 藏野大正新作             | ..... | (六九) : 三七七 |
| 正 | 月桜異曲(初春桜・十六夜桜・初花桜) | ..... | (六九) : 三八五 |
| 無 | 辺                  | ..... | (七〇) : 三九〇 |
| 無 | 明の井                | ..... | (七一) : 三九六 |
| 叢 | 雲                  | ..... | (七八) : 四〇七 |
| 村 | 山異本(長尾)            | ..... | (八〇) : 四一八 |
| 無 | 量寿仙                | ..... | (八一) : 四二四 |

|           |     |             |
|-----------|-----|-------------|
| 無漏寺       | ……… | (八二) …… 四三一 |
| 室 住異本(室積) | ……… | (八六) …… 四四三 |
| 室 津       | ……… | (八七) …… 四四八 |
| 室 山異本     | ……… | (八八) …… 四六〇 |



## 凡例

- 一、本文庫の『番外謡曲角淵本』正統二冊計五十二番、『未刊謡曲集』三十一冊計一五二六番、合計一五七八番、『謡曲叢書』三冊、『新謡曲百番』、国民文庫本『謡曲全集』上下巻、国書刊行会本『宴曲十七帖附謡曲末百番』、日本名著全集本『謡曲三百五十番集』、『謡曲評釈』九冊（謡曲叢書本以下は重複曲多く、重複しない総数は約六百番）などの、図書館などで比較的閲覧し易い、まとまった諸本にみられる曲を除き、残余を五十音順に配列して続編とし、この続第十四冊では「皇軍艦」から「室山」までの四十六番を翻刻した。
- 二、翻刻はすべて原本通りを原則としたが、私意を加えた所はすべて（ ）でくくった。また各曲解題の所でも、原典を引用した所の中の私註は同様に（ ）でくくった。

三、原典には段落のない場合が多いが、編者の見識で適宜改行した。

四、節付は印刷の都合上省略せざるを得なかったが、稀に節付のない写本もあ

り、また活字翻刻本しか見当らない曲は勿論節付省略本であるから、これらは原典に既に節付がなかった曲である。これらの点は解題で触れた。

五、「次第」「一セイ」「舞」などの演出上の重要記号はできるだけ残したが、囃子の打切を意味する「打切」「切」「ウ」、間拍子を意味する「ヤ」「ヤア」「ヤヲ」「ヤヲハ」、地拍子を意味する「トリ」「片地」「ヲクリ」などの特殊記号は省略した。

六、「印は原典に固執せず、詞の所（節付のない所）は「節の所（ゴマ譜のある所）」はへを付けて区別した。

七、句点は原則として原本通りにしたが、元来句点は節譜の一種であって（句点は必ずそこで息を一旦切り次を謡えという謡い方の記号）、韻文の切れ目とは必ずしも一致しないから、韻文（節付のある部分）の拍子合わずの所は七五調を基本とする一節を原則として一句と考え、拍子合いの所は八拍子を基準とする一区切を一句とし、これらの区切の所に編者の見識で句読点を付けた。この場合原典に句点のある時はそのままにし、句点のない時は読点を付

けて区別した。また詞の所も原本が句点を脱していると推察される場合は、これまた編者の見識で読点を付けた。謡本に読点はない。

八、濁点は、原本にある場合、異本を参考にして補った場合、編者の見識で補った場合の三つに分けられるが、清濁いずれか決し難い場合はそのままにした所もあり、また注意すべき所は括弧でくくって私見を述べた。

九、曲名の下の「」でくくった番号は、未刊謡曲集一の最初の曲を一とし、それからの通し番号である。したがって角淵本番外謡曲からの通し番号は、これに五十二を加えればよいことになる。

十、謡曲の専門的な術語については、『未刊謡曲集』三十一附載の拙稿「謡曲の音楽的研究」を参照して頂きたい。但し右の拙稿には校了後、組版の時に印刷所側に過失があり、二二五頁の初行全部を二二四頁の初行に移行して読んで頂きたい。

本巻作製にあたっては大勢の方々の御厚意による所が多いが、中でも故人では石田元季・井上嘉介・江崎金次郎・江島伊兵衛・観世左近・高安六郎・

横山柚人、現存の方では、伊藤正義・稻垣富夫・梶井厚佑（旧名達男）・春日井弘三・後藤孝一郎・竹中宏・多田富雄・堂本正樹・西野春雄・福王茂十郎・藤城継夫・前西芳雄・味方健・吉田幸一の諸氏、また解題中に述べた各公共機関の暖い御協力を得た。厚く御礼申し上げます。（一九九四年四月十三日記す）

## 各曲解題

皇軍艦(みいくさぶね)前名：赤道神。昭和十八年(一九四三)五月十五日、檢書店發行、觀世流二十五世宗家觀世元正著作權所有の、觀世流大成版形式の版本によつて翻刻した。但し不必要と思われる傍訓は省略した。版本の前附によると、「本曲は、帝国海軍潜水艦乗組佐古少尉の原作を、大本営海軍報道部の委嘱により、謡曲化し、皇軍艦と題して發表した当流新曲である。赤道を通過する艦船が、赤道祭を執行して航行の安全を祈願することは、航海者の普く知るところである。皇軍艦はこの赤道祭を背景に、帝国海軍々人将士の忠勇を描いた新作能である。斯の如き内容を取扱つた謡曲は曾つて見ないところで、聖戦下に相應しいものと言はねばならぬ。本曲の狙ひは、大東亜戦争に対する日本の根本理念を明示して、敵国米英の非道を糺弾し、大東亜十億の民族の為に蹶起した皇国の正義を昂揚するにある。赤道神を引用したのは脚色上の方便であつて、作の

中心を貫ぬくものは、厳然たる皇道精神であることを忘れてはならぬ。(下略)」とあって、第二次世界大戦の聖戦化を謡曲で表現しようとした際物謡曲で、敗戦後の現在では到底受容できない作品である。

雑誌『観世』昭和十八年五月号の十一頁には、本曲は潜水艦乗組の佐古少尉が「赤道神」と題して、乗組潜水艦の雑誌に発表した原作を、海軍当局の依頼で、当時未青年であった観世元正宗家の後見役観世鍔之丞師(後の華雪)が、海軍当局の許可を得て若干の詞章の改訂を行い、且つ節付をした由が報告されている。また同誌同号十二頁には「戦時下に於ける能楽師の覚悟」と題する観世鍔之丞師の、同年四月九日東京九段の軍人会館における「芸術報国大会」での講演が掲載され、本曲が近く上演されることが述べられ、同誌同号二頁以下には本文も翻刻されている。その予告通り、昭和十八年五月二十六日、東京大曲の観世能楽堂で観世鍔之丞師のシテで本曲が初演され、当時のJ O A K(現NHK)からラジオ放送もされ、レコードにも吹き込まれ、時局物として「忠霊」(未刊謡曲集続九所収)と共に流行したが、敗戦と共に廃絶した。

身売(みうり)異本。別名：神原。<sup>カンバ</sup>『謡曲叢書』第三卷に翻刻されているが、この原本は不明。元禄二年版三百番外百番本に見えるが、これを翻刻した国民文庫本『謡曲全集』下巻は異本の方によって、巻十が「二見浦」「愛寿忠信」「飛鳥川」「箆尺八」「合浦」となつて居り、本曲は翻刻から漏れている。しかし伊藤正義氏篇、平成二年二月二十八日発行の『版本番外謡曲集』の複製本にはその二冊目の二六〇頁に本曲が複製されている。これは正本の方によって居り、前記巻十は「淡路」「植田」「身売」「熊野詣」「合浦」となっている。

本曲は写伝も多いが、異本も多く、大別して次の四系統に分かれる。①は既に翻刻済みだから翻刻を省き、②から④までの三種を翻刻した。四種共、ゴマ譜のある所、特に拍子合の所はほぼ同文であるが、劇能である本曲の詞の所はそれぞれ大異があり、また意味不明瞭な難語は四種共種々な漢字を宛てたり、仮名書のままにしたり、また発音も違つたりして、どれが原作なのか、どれが正しいのかは後考を待ちたい所が散見する。

①謡曲叢書本。②③④のどれとも大異。②元禄版本系。他に仙台北第二種・

家藏浅葱表紙本・下村本(翻刻底本)。③の福王系との朱校合があるが、校合が必ずしも③と全く一致はしないので、この校合も煩を厭わず全部記した)などがあり、全部上懸節付。四本共殆ど同文。③福王系。家藏樋口本・能勢朝次氏旧藏能勢本(翻刻底本)・吉田本・平松本・井上本第一種・同第三種・盛親本・五百番本・福王本第二種・觀世本・国学院本第二種・同第四種など伝本が多いが、いずれも殆ど同文。④上杉本。法政能楽研究所藏上杉本で、下懸節付。これも他の①②③系と主として詞の部分が大異。外に鴻山文庫藏了随本・浜本本・天理図書館藏三百五番本・岩国徴古館藏本・毛利旧公爵家藏毛利本・京都大学本第一種(神原と題す)・丸岡桂氏旧藏元文写本などがあるが未調。

鴻山文庫藏慶長九年(一六〇四)頃成立の『曲海』に、小異はあるが本曲の「何にたとへんあさばらけ……以下クセの終りまでが見える。大永四年(一五二四)四月上旬成立の『能本作者註文』及びその系列の諸本に作者不明とあるから、室町中期、十五世紀末か十六世紀初頭頃の作かと思われるが、キリの「是は誠か……」以下「現じ給ふか有難や」までは、室町初期の作と推定される外山<sup>とび</sup>作らしい現行曲「唐